

【学校教育目標】

心も体も健康で、すすんで学習する子の育成

【めざす子ども像】

○ **確かな学力： 深く考える子**

- ・ 自主的に判断し、行動できる
- ・ 確かな学力を身に付ける
- ・ 創造性を伸ばす

・ 基礎学力の定着と向上
・ 個性と創造力の育成

○ **豊かな心： なかよく認め合う子**

- ・ 人権を大切にする
- ・ 物を大切に使う
- ・ 動植物を大切にする

・ 人間愛・自然愛に基づく
豊かな心情の育成

○ **健やかな体 元気で諦めずにがんばる子**

- ・ 体と心をきたえる
- ・ 根気強くやりぬく
- ・ きまりを守る
- ・ 当番活動を進んでする

・ 体力の増進と意思の強化

【学校経営方針】

児童・保護者・地域から信頼される学校をめざす

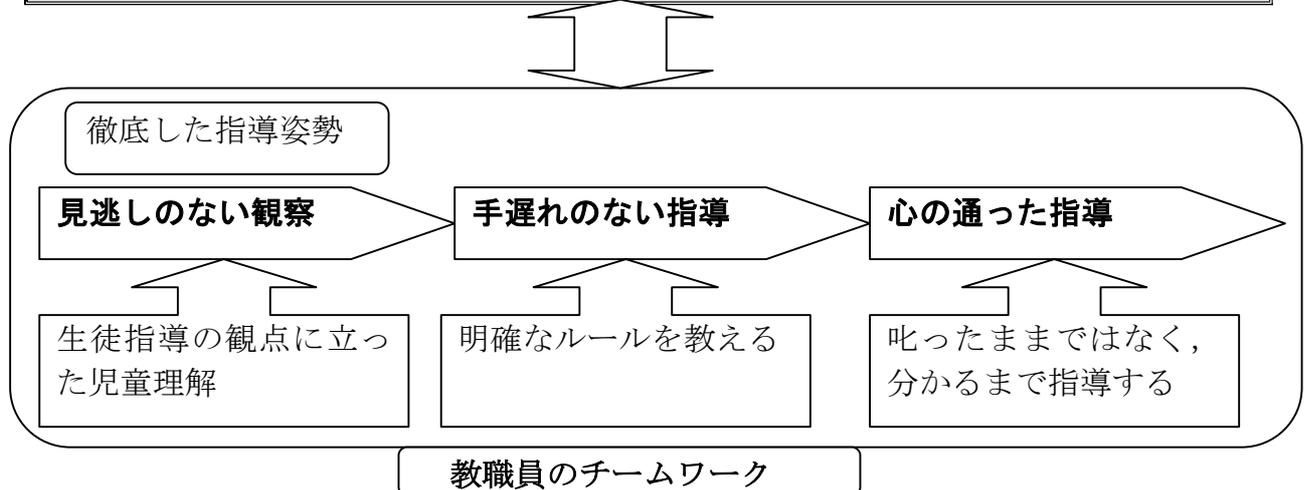
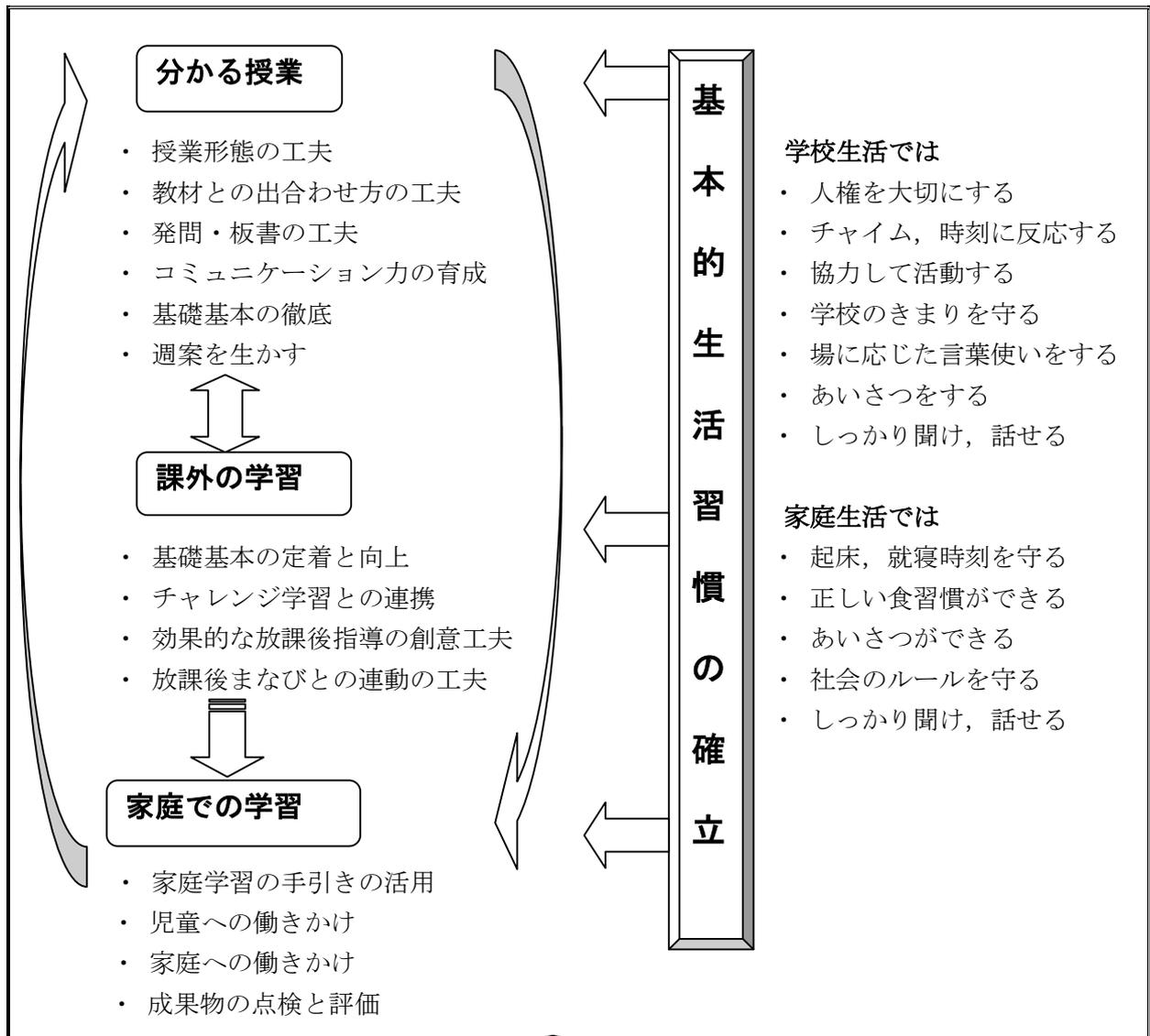
- ・ 困難に立ち向かう活力と協働体制を強化した学校作り
- ・ 学習指導・生徒指導の力量を高める教職員集団作り
- ・ 開かれた学校作り … 家庭・地域の役割の明確化と連携の強化
家庭訪問と学校評価の有効活用
- ・ 子ども達にとって伸び伸びと過ごせる学校作り
- ・ 分からないことが自然に分からないと言え、試行錯誤ができる学校作り

学年教育目標・学級経営目標・自己研修計画

具 体 的 教 育 実 践

【教育目標の実現に向けた取組】

- ① 将来展望をもち、その実現に向かい最後まで諦めず、何事にも一生懸命取り組める学力をもった子どもの育成
- ② 違いを認め合い、励まし高め合える子どもの育成
- ③ 基本的な生活習慣の確立した子どもの育成



【教育活動を進めるにあたって】

《児童理解に努め、確実な働きかけを》

子どもたちが自分の責任でないことにより、学ぶことや学ぶ意欲が制約されているとするなら、それらを取り除き、一人ひとりの子どもの可能性を最大限に伸ばす教育活動（実践）こそが大切である。そのために、子どもの置かれている背景にも目を向け、保護者との信頼関係を築く取組を重視したい。そして、学級経営をしっかり築き、その上にたって、授業の改善を進めていくことが必要である。私たちは教育の根幹をここに置き、「一人ひとりの子どもを徹底的に大切にす」という本市教育の理念の具体化に向けて取り組んでいきたい。

1. 子どもの姿から考える。(行動の様子や友人関係も含め)

- ・登校の様子から … いつ登校しているか? (前日の生活の様子を推測する)
- ・休み時間の様子から … すごし方 (誰と? 固定? 流動的?) 友人との関係は?
- ・学習の様子 … 持ち物 (状態は?) 意欲 (ノートやプリントの様子は?)
- ・給食の様子から … 喫食の様子 (食べ方? 偏食は?) 持ち物の状態は?
- ・放課後の様子から … 下校の様子 (誰と? 関係は?)

○上記の観点からそれぞれの児童の抱えている課題が見えてくる。

2. 課題の要因を探る。

① 本人, 家庭に課題があるのか?

- ・親の養育態度・教育観は?
- ・生活環境は?
- ・生活のリズムは?
- ・家庭学習は?
- ・本人, 家庭についていない力は?

② 学級・学年・学校に課題があるのか?

- ・リーダーは? 考え方は?
- ・学級・学年・学校の価値観は?
- ・指導内容・体制は?

3. 手立てを考え, 実践する

- ・具体的で実現可能な目標と長期的な目標の共通理解を図る
- ・目標を意識した行動を
- ・本人や周りの子から情報収集
- ・得意・自信のあるものを全体の場で披露
- ・少しでも進歩があれば, 的確に評価し, 本人, 家庭に
- ・評価を繰り返し, より高度な目標へ

4. 取組の点検と評価を繰り返す

- ・教育活動全てにおいてPDCA (PLAN→DO→CHECK→ACTION) を行う。

5. いじめを絶対に許さない体制作り

- ・教職員, 保護者, 地域, 関係機関の連携による情報の共有を積極的に図り, いじめ未然防止に努める。

《確かな学力をめざして》

校内研究について

中央教育審議会が平成 28 年 12 月に「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び総合支援学校の学習指導要領等の改訂について」答申を行い、次期学習指導要領（案）を受けて、資質・能力を伸ばす上で 3 点の基本的な考え方が示された。その中に

- ① 基礎的・基本的な生きて働く知識・技能の習得
- ② 未来の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成
- ③ 学びを人生や社会に生かそうとする、学びに向かう力・人間性の涵養

が示されている。これらを授業の中でどう生かすかという時に、「主体的・対話的で深い学び」が重要になってくる。最初に「主体的な学び」とは、児童がやる気をもって頑張ることは勿論のこと、特に見通しをもって学ぶこと。次に「対話的な学び」とは、自分の考えが言葉やその他の方法によって表現されたものを共有して対話していき、それによっていろいろな考え方を結び付けられるようにするという。最後に「深い学び」は、「見方・考え方」をより深めて、その教科の本質的な部分に迫っていくということである。しかし、このような学びを進めていく上で、具体的には、読み・書き・計算などの基礎的・基本的な知識・技能は、例えば、小学校低・中学年では体験的な理解や繰り返し学習を重視するなど、発達の段階に応じて徹底して習得させることは欠かせないものと言える。

全国学力学習状況調査やジョイント・プレジョイントプログラムの結果から、本校児童の実態を踏まえて昨年度より研究教科を算数科とした。この教科を通して「学校での学びと社会とのつながり」や「分かる喜びと学ぶ楽しさ」を実感できる授業を目指し、常に効果的な指導方法や指導体制の工夫改善を図っていく。また、ICT 機器等を効果的に活用し、情報の収集・分析・まとめ・発信・伝達等ができるよう、日野小学校の児童実態に適応した授業のあり方を求めていくことが大切であると考えている。

そこで、今年度の研究主題を

自ら考え、達成感のある学びの実現

「主体的な学びと基礎・基本の定着を図る」

とした。

日々の取組

1. 授業の充実

- ・成果と課題を明確にすることによって授業力の向上を図るとともに、見通しをもって取り組む。
(指導計画・週案の有効活用)
- ・すべての教育活動で「話す・聞く」力を育成し、教科学習では、「書く」活動を意識し、ノート指導を確実にする。
- ・効果的な T・T 体制、少人数学習など、指導体制の工夫と充実を図る。
- ・問題解決学習や体験を通じた学習の充実を図る。教師の説明よりも学習活動。
- ・考えさせること、教え込むこと、スキル学習が必要なことをしっかり意識し、取り組む。
- ・「? (なぜ)」から始まり、「! (そうか)」にたどり着く授業作り、授業の面白みを感じさせる。

2. 学習集団作り

- ・「話のしっかり聞ける子・話せる子」の育成に努める。
- ・学習に向かう姿勢づくりを共通認識する。
- ・児童朝会や全校集会などで表現すること、聞くことを意識し進める。

3. 帯時間「チャレンジタイム」での取組の徹底

- ・児童の実態に合わせた基礎・基本の学力の向上を目指す。
- ・高学年は、中学進学を視野に入れて、少しでも基礎・基本に関わる学習の習熟を図るようにする。

4. 読書の習慣化

- ・帯時間「わくわくタイム」での取組・・・担任も一緒に朝の10分間読書
- ・年間読書100冊以上の児童が前年度より増えるよう、図書室のより効果的な活用を促す。
- ・地域の図書館の事業を活用し、児童の読書への関心を高める。
- ・読書ノートの活用

5. 家庭学習の習慣形成

- ・学習予定表の充実・・・児童自身、内容や目標を書き込み、振り返りが出来る予定表であり、保護者と連携できるような形にする。児童への励ましやシールなどで意欲付けも図る。
- ・学習時間（15分×学年）の確保と自主学習の奨励（具体的に例示して）
- ・家庭学習の内容について、十分吟味する。（少なくとも学年内で）

《日野小学校コミュニティースクール（学校運営協議会）の推進》

1. 設定の理由

本校は保護者の学校教育への関心があまり高くない実態があり、学習面・生活面において課題のある児童が多数見られる。従って、児童が「生きる力」を身に付ける取組を推進するためには、学校・家庭・地域が一体となって「地域の子どもは地域で育てる」取組を進めることが重要である。そのため、保護者や地域の方々の声を学校運営に反映し、学校教育への参画意識を高めるとともに、ボランティアなどによる支援を充実させることが大切であると考えている。

2. 具体的な取組

- ・学校と学校評議員やPTA役員との会合をもち、地域住民や保護者の意向を把握すると共に、学校運営協議会の意義と役割を明確化し、理事会を実施する。
- ・企画推進委員の公募を実施し、理事会を中心に学校運営協議会の組織・運営体制作りを行う。
- ・学校の取組について理事会に周知する。
- ・理事会からの提案を受け、企画推進委員会を中心に各部会での具体的な活動計画を話し合い、各部会を中心に実施する。
- ・学校評価との関連を図るなどして学校の教育課題を重点化すると同時に、家庭や地域が果たすべき役割やあり方についても論議・検討し、地域と一体となってその課題解決に向けた取組を進める。